

斑鳩町の上水道

斑鳩町は奈良県北西部に位置し、昭和22年2月、旧龍田町、旧法隆寺村、旧富郷村の3つの町村が合併し斑鳩町となりました。

平成5年12月、世界文化遺産に登録された法隆寺をはじめとし、数多くの古社寺や藤ノ木古墳などの歴史遺産が点在し、大都市圏への交通の便にもすぐれた地域として発展した町です。

しかし、斑鳩町を含む奈良盆地では、生活用水には恵まれず、ほとんどを井戸水に依存しており、その井戸水も水量が少ないうえ鉄分を含むため、町民の強い要望により昭和30年8月上水道事業の認可を取得し昭和32年12月に一部の地域に通水したのが始まりです。



上水道事業の沿革

創設

昭和31年3月～昭和33年12月
給水人口 12,000人
1日最大給水量 2,160m³
事業費 68,750,000円

- 主な事業 ●
- 第1浄水場新設

第1次拡張事業

昭和35年12月～昭和38年3月
給水人口 12,000人
1日最大給水量 2,160m³
事業費 18,300,000円

- 主な事業 ●
- 第1浄水場増設
(凝集沈澱池、薬注設備)
取水施設整備

第3次拡張事業

昭和45年3月～昭和47年3月
給水人口 27,000人
1日最大給水量 10,800m³
事業費 258,700,000円

- 主な事業 ●
- 第1浄水場増設
(西配水池、北配水池)
第2浄水場建設及び取水施設整備

第2次拡張事業

昭和38年6月～昭和40年4月
給水人口 20,000人
1日最大給水量 5,000m³
事業費 72,920,000円

- 主な事業 ●
- 第1浄水場増設 (薬品沈澱池)
導水施設及び取水施設整備
配水管の拡充

第4次拡張事業

昭和56年～昭和60年3月
給水人口 35,000人
1日最大給水量 21,000m³
事業費 1,835,000,000円

- 主な事業 ●
- 三井浄水場及び配水池新設
取水施設整備
第2浄水場浄水廃止

第5次拡張事業

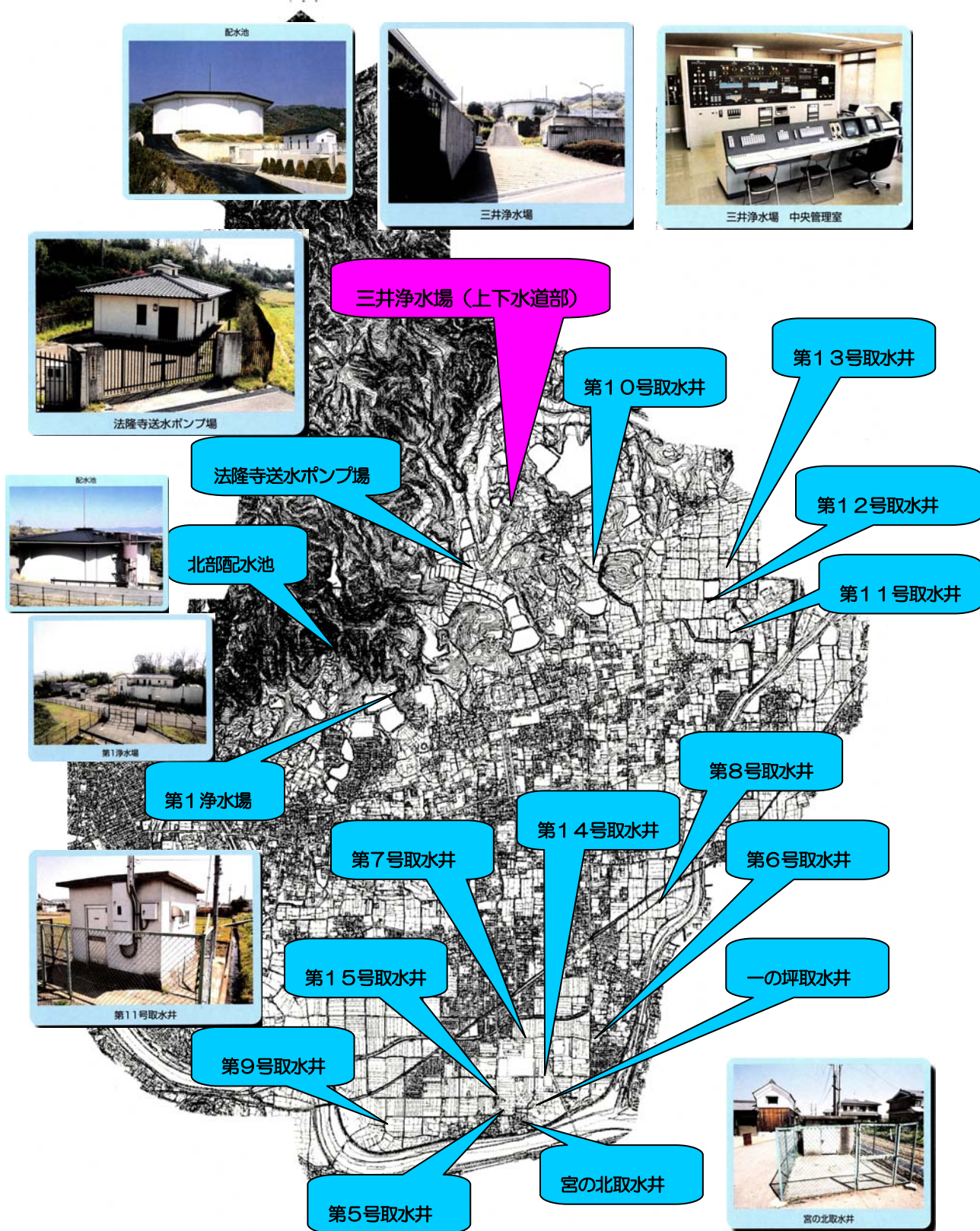
(変更認可を含む)

平成7年～平成26年
給水人口 30,900人
1日最大給水量 16,000m³
事業費 3,164,795,000円

- 主な事業 ●
- 白石畑地区上水道統合
第1浄水場及び配水池建設

上水道施設と集中監視制御システム

町内全域に良質の水を供給するために、斑鳩町には数多くの水道施設があります。

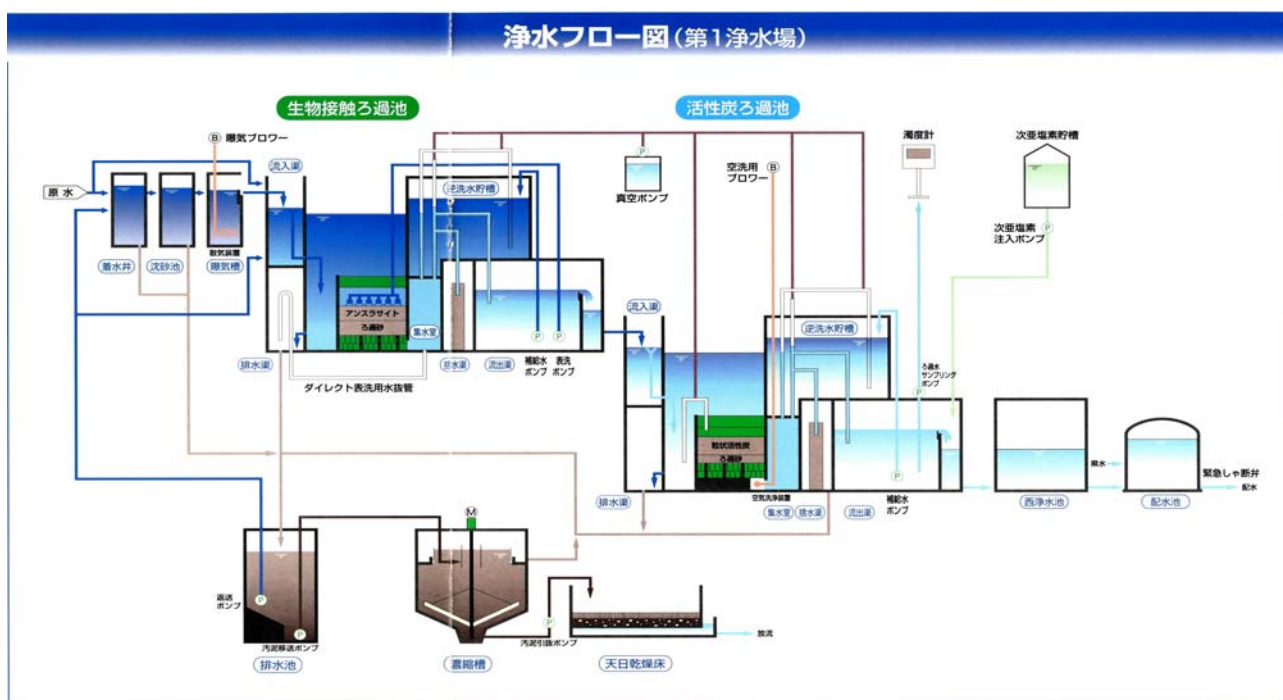


斑鳩町ではそれらの施設を監視、制御するため集中監視制御システムを導入し効率よく合理的に運転しています。また、このシステムにより取水井戸等のポンプの運転状態や配水池の水位をはじめ、浄水場の各種情報と取水井戸など遠隔地の情報が中央管理室の監視装置に表示され、故障などに対していち早く対応できる体制となっています。

自然の力で安全で良質な水に

斑鳩町では地下水を水源とし、取水井より汲み上げた水を浄水場に送っています。まず、第1浄水場では、鉄バクテリアなどの生物を利用することにより薬品（凝集剤）を使用しないで浄水処理しています。

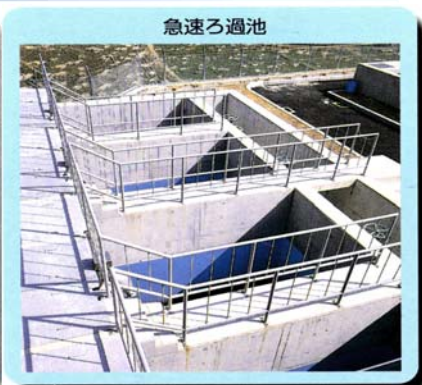
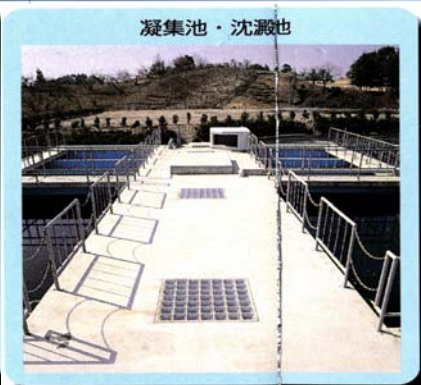
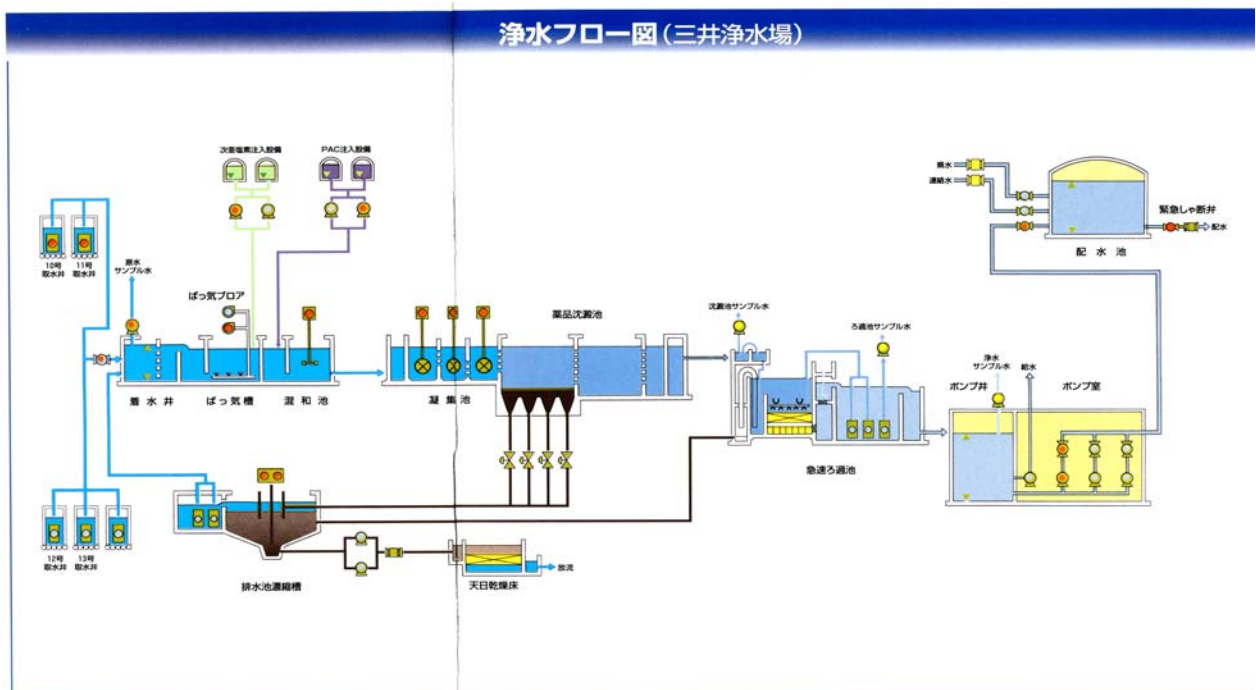
生物接触ろ過池では鉄バクテリア法を利用することにより鉄・マンガン・アンモニア性窒素を除去でき、それ以外の有機物や色度、トリハロメタン生成能などは活性炭ろ過池で処理し、浄水処理工程の最終段階で消毒剤として塩素を注入して配水池（タンク）から各家庭に供給されます。





きれいな水をつくるために

三井浄水場では浄水場へ送られた水は、着水井、ばっ気槽を通った後に凝集剤や消毒剤を注入し、凝集池、沈澱池で細菌や濁りが除去され、急速ろ過池でろ過し、配水池から各家庭に供給されます。



施設の紹介

三井浄水場

三井浄水場は、昭和60年に完成した浄水場で浄水能力は1日3,200m³です。敷地内には上下水道部の事務所があります。事務所2階にある中央管理室において、三井浄水場はもとより第1浄水場などの各場外施設の監視制御をしています。



水質計器室



電気室

第1浄水場

第1浄水場は、平成15年に完成した浄水場で生物接触ろ過、活性炭ろ過の浄水処理方式を採用した高度浄水処理施設です。浄水能力は、1日2,500m³です。



排水処理設備



滅菌装置